

第1学年		内容	配当 時数	学習指導 要領の 内容	教科書 のページ
1編 未来につながる家庭分野	1章 家庭分野の ガイダンス	①自立と共生を 目指そう	2	A(1)ア	p.12-13
		②中学校家庭分野の 学習を見てみよう		A(1)ア	p.14-17
		③家庭分野の 見方・考え方		A(1)ア	p.18-19
2編 私たちの食生活	2章 私たちの 家庭と 家庭生活	①私たちの家族と 家庭生活	1	A(1)ア	p.20-21
		②中学生と家族の 1日の家庭生活		A(1)ア	p.22-23
		③私たちが成る 家族・家庭の機能		A(1)ア	p.24-25
2編 私たちの食生活	1章 食事の役割と 中学生の 栄養の特徴	①食事の役割	1	B(1)アイ	p.30-31
		②私たちの食生活		B(1)アイ	p.32-33
		③栄養素の種類と 働き		B(1)アイ	p.34-35
		④中学生に 必要な栄養		B(1)アイ	p.36-37
	2章 中学生に 必要な 栄養素を 満たす食事	①食品に含まれる 栄養素	2	B(2)ア	p.38-39
		②6つの食品群と 食品群別摂取量の 目安		B(2)ア	p.40-47
		③バランスの 良い献立作り		B(2)アイ	p.48-51
	3章 調理のための 食品の 選択と購入	①食品の選択と購入	1	B(3)ア	p.52-53
		②生鮮食品の特徴		B(3)ア	p.54-55
		③加工食品の特徴		B(3)ア	p.56-59
	4章 日常食の 調理と 地域の食文化	④食品の保存と 食中毒の防止	1	B(3)ア	p.60-61
		①日常食の調理		B(3)アイ	p.62-73
		②野菜・いもの調理		B(3)アイ	p.74-79
		③肉の調理		B(3)アイ	p.80-87
		④魚の調理		B(3)アイ	p.88-95
5章 持続可能な 食生活	⑤日本の食文化と 和食の調理	4	B(3)アイ	p.98-103	
	①持続可能な 食生活を目指して		B(1)(2) (3)、C(2)	p.104-109	
選択	食生活、環境	生活の課題と実践	3	B(7)、 C(3)	p.271-281

第2学年		内容	配当 時数	学習指導 要領の 内容	教科書 のページ
3編 私たちの衣生活	1章 衣服の選択と 手入れ	①衣服の役割	1	B(4)ア	p.118-119
		②私らしさとT.P.O. -着方の工夫-		B(4)ア	p.120-121
		③日本の衣服の文化		B(4)ア	p.122-125
		④衣服の手入れ① -衣服の補修-		B(4)アイ	p.126-129
		⑤衣服の手入れ② -衣服の洗濯と保管-		B(4)アイ	p.130-137
		⑥衣服計画と 必要な衣服の選択		B(4)アイ	p.138-141
2章 生活を豊かに するために	①作って楽しい 布作品	8	B(5)アイ、 C(2)	p.142-161	
	①持続可能な 衣生活を目指して		B(4)(5)、 C(2)	p.162-163	

4編 私たちの住生活	1章 住まいの 役割と安全な 住まい方	①住まいの役割	1	B(6)ア	p.168-171
		②住まいと気候風土の 関わり		B(6)ア	p.172-175
		③健康で快適な 室内環境		B(6)アイ	p.176-177
		④家族の住まいを 安全・安心に		B(6)アイ	p.178-181
		⑤災害への対策		B(6)アイ	p.182-185
2章 持続可能な 住生活	①持続可能な 住生活を目指して	1	B(6)、 C(2)	p.186-187	
	①消費者としての 自覚		1	C(1)ア	p.194-195
②購入方法と 支払い方法	C(1)アイ	p.196-197			
③バランス良く 計画的な金銭管理	C(1)アイ	p.198-199			
④消費者トラブルと その対策	C(1)アイ	p.200-203			
1章 私たちの 消費生活	①何を考えて 決めますか -意思決定のプロセス-	1	C(1)アイ	p.204-207	
	②消費者として できること -権利と責任-		C(2)アイ	p.208-209	
	①省エネルギーと 持続可能な社会		2	C(2)アイ	p.210-213
②持続可能な 消費生活を目指して	C(2)アイ	p.214-215			
6編 私たちの成長と家族地域	1章 家族・家庭 生活での自立	1	A(1)ア	p.222-223	

第3学年		内容	配当 時数	学習指導 要領の 内容	教科書 のページ
6編 私たちの成長と家族地域	2章 幼児の生活と 家族	①幼い頃の振り返り	0.5	A(2)ア	p.224-225
		②幼児の体の発達		A(2)ア	p.226-227
		③幼児の心の発達		A(2)ア	p.228-231
		④幼児の1日の生活		A(2)ア	p.232-235
		⑤支えられて 身につける生活習慣		A(2)ア	p.236-237
		⑥幼児の生活と遊び		A(2)ア	p.238-239
		⑦遊びを豊かにする物		A(2)ア	p.240-241
選択	幼児、衣生活、 環境	生活の課題と実践	3	A(4)、 B(7)、C(3)	p.271-281
6編 私たちの成長と家族地域	2章 幼児の生活と 家族	⑧幼児との関わり方の 工夫	4	A(2)アイ	p.242-251
		⑨幼児との関わりを 生活に生かす		A(2)ア	p.252-253
		⑩子どもにとっての 家族		A(2)ア	p.254-257
3章 持続可能な 家庭・地域生活	①家族との関わり	1	A(3)アイ	p.260-261	
	②家族や地域の 高齢者との関わり		A(3)アイ	p.262-263	
	③地域での協働を 目指して		A(3)アイ	p.264-267	
家庭分野の学習を終えて		0.5	A、B、C	p.282-283	



年間指導計画例と 学習指導要領の 小中高関連表

年間指導計画例①	2
年間指導計画例②～⑤	4
学習指導要領の小中高関連表	6
教科書の内容構成と学習指導要領との対応表	8

1 自立と共生を目指して、衣食住の生活から始まり 家庭・地域・社会へと視野を広げる例

この例は、自分から家族、家族から地域、社会へと段階的に視野を広げ、自分や家族のために進んでよりよい生活を工夫していくことをねらいとしている。第1学年から第2学年では、自分の生活を見つめ直し、生活の自立を目指して、内容Bを履修させる。その後、関連を図り内容Cを履修させる。選択必修の生活の課題と実践は、第1学年末にサステナブルクッキング、第3学年に余り布を用いた幼児の小物作りを設定して、問題解決的な学習や主体的・対話的な学習が繰り返し行えるようにしている。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年	項目	A(1) 自分の成長と家族・家庭生活			B(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴			B(2) 中学生に必要な栄養素を満たす食事							B(3) 日常食の調理と地域の食文化/ C(2) 消費者の権利と責任[環境]										B(7)、C(3) 生活の課題と実践											
	時数	3			4			7							18										3											
	学習内容	・ガイダンス*1 ・家族・家庭生活			・食事の役割 ・健康に良い食習慣 ・栄養素の種類と働き ・中学生の栄養の特徴			・食品に含まれる栄養素 ・中学生に必要な栄養素 ・中学生の1日に必要な食品の種類と概量 ・1日分の献立の工夫							・食品の選択と購入 ・生鮮食品と加工食品 ・食品の保存と食中毒の防止 ・日常食の調理(野菜、肉、魚)										・地域の食文化 ・地域の食材を生かした和食の調理 ・持続可能な食生活を目指して											
見・考*2	協			健・快・安/文			健・快・安/文							健・快・安/文										健・快・安/文/持												
カリマネの一例*3	小高家庭			小中理科:体のつくりと働き/中道徳:節度、節制、望ましい生活習慣/ 中保健:健康な生活と疾病の予防							中技術:生物育成の技術/中道徳:伝統と文化の尊重、法や決まりを守る精神/ 中社会(地):伝統文化の継承、地域の伝統的な生活・文化、日本の農林水産業										中国語:レポートの書き方、話すこと・聞くこと															
第2学年	項目	B(4) 衣服の選択と手入れ							B(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作/ C(2) 消費者の権利と責任[環境]							B(6) 住居の機能と安全な住まい方/ C(2) 消費者の権利と責任[環境]					C(1) 金銭の管理と購入			C(2) 消費者の権利と責任		A(1)										
	時数	8							9							8					5			4		1										
	学習内容	・衣服の働き ・目的に応じた着用と個性を生かす服装 ・衣服の手入れ ・衣服の計画的な活用 ・衣服の選択							・生活を豊かにする工夫 ・製作の計画 ・布を用いた物の製作(リメイク・リフォーム) ・持続可能な衣生活を目指して							・住まいの役割 ・家族の生活と住空間との関わり ・日本の住まいと住まい方 ・健康で快適な住まい ・安全で安心な住まい(家庭内事故、災害への対策) ・持続可能な住生活を目指して					・消費者としての自覚 ・販売方法と支払い方法 ・計画的な金銭の管理 ・消費者トラブル ・商品の選択(意思決定のプロセス)			・消費者の権利と責任 ・省エネルギーと持続可能な社会 ・持続可能な社会を目指して		中学生としての自立										
見・考	健・快・安/文							健・快・安/文/持							健・快・安/文/持					持			持		協											
カリマネの一例	中道徳:向上心、個性の伸長/中美術:形や色彩の特徴/中数学:平面図形/中社会(地):伝統文化の継承、世界各地の人々の生活と環境														中理科:日本の天気の特徴と気団、自然の恵みと災害/中社会(地):日本の諸地域、世界各地の人々の生活と環境、自然災害と防災への取り組み/中保健:室内の空気衛生的管理、自然災害による傷害の防止					中社会(公):市場の動きと経済、現代社会を捉える枠組み、契約と消費生活、貧困問題/中技術:情報モラル/中保健:生活に伴う廃棄物の衛生的管理/中道徳:国際理解、国際貢献/高家庭:三者間契約			中道徳:家庭生活の充実													
第3学年	項目	A(2) 幼児の生活と家族				A(4)、B(7)、C(3) 課題と実践		A(2) 幼児の生活と家族				A(3) 家族・家庭と地域		A、B、C																						
	時数	6				2		6				3		0.5																						
	学習内容	・幼い頃の振り返り ・幼児の体の発達 ・幼児の心の発達 ・幼児の生活習慣の習得 ・幼児の生活と遊び				幼児、衣生活、環境の課題と実践(例)余り布で幼児の小物作り		・幼児との関わり方の工夫(幼児との触れ合い体験) ・子どもにとっての家族				・家族の協力と家族関係 ・高齢者との関わり ・地域での協働を目指して		学習を終えて																						
見・考	協				協/健・快・安/文/持		協				協		協																							
カリマネの一例	小家庭:自分の成長と家族・家庭生活/中保健:体の発達・発達、心の発達/中道徳:個性や立場の尊重、望ましい生活習慣				中国語:レポートの書き方、話すこと・聞くこと		中書写:手紙の書き方/中社会(公):法の意義の理解				中道徳:家庭生活の充実、社会参画、公共の精神/総合:触れ合い体験		高家庭																							

※1 「家庭分野のガイダンス」では、自分の成長の振り返り、小学校家庭科の学習内容の振り返り、3学年間の学習内容を見通す内容、家族・家庭の基本的な機能と学習内容とのつながりを指導し、これからの学習への期待と意欲を持たせる。
 ※2 生活の営みに係わる見方・考え方の 協 協力・協働、健・快・安 健康・快適・安全、文 生活文化の継承・創造、持 持続可能な社会の構築を示す。
 ※3 教科名の前の「小」は小学校、「中」は中学校、「高」は高等学校を示す。

配当時数	A	B食生活	B衣生活	B住生活	C	課題実践	合計
	19.5	29	17	8	9	5	87.5

2 持続可能な社会の構築を目指して 生活を工夫し創造する力を身につける例

この例は、持続可能な開発のための教育（ESD）の視点を重視し、消費者としての適切な判断や環境への配慮と、衣食住の生活を関連付けて考え、自分なりに生活を工夫・創造できるようになることをねらいとしている。ガイダンスに続けて内容Cの環境に関する内容を位置付けるとともに、第3学年の最後に改めて設定し、3年間の基盤とする。第1学年から第2学年では、内容Cと内容Bを結び付けながら学習を進める。第1学年の冬季休業中に生活の課題と実践でサステナブルクッキングを設定した。また、第3学年の生活の課題と実践は、第2学年の住生活と高齢者を結び付けた学習と、第3学年にかけての幼児の学習を踏まえ、安全な住まい方を工夫する内容を設定している。

第1学年	項目	A(1) ガイダンス	C(2) 消費者の権利と責任 [環境]	B(1) 食事の役割と中学生に必要な栄養の特徴	B(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事	B(3) 日常食の調理と食文化 [食品の選択と調理]												☆ B(7)、C(3)	B(3) 日常食の調理と食文化 [地域の食文化] C(2) 消費者の権利と責任 [環境]	C(1) 金銭の管理と購入					
	時数	1	2	3	6	12												2	5	4					
第2学年	項目	C(1)(2) 消費者トラブルと消費者の権利と責任		B(4) 衣服の選択と手入れ				B(5) 布を用いた製作 C(2) 消費者の権利と責任 [環境]				B(6) 住居の機能と安全な住まい方 C(2) 消費者の権利と責任 [環境]				A(1)(3) 家族・家庭と地域	A(2) 幼児の生活と家族								
	時数	3		8				8				8				4	4								
第3学年	項目	A(2) 幼児の生活と家族				☆ A(4)、B(7)	A(1)(3) 家族・家庭生活と地域	C(2) 消費者の権利と責任 [環境]	☆:生活の課題と実践																
	時数	9.5				3	3	2																	
		配当時数	A	B食生活	B衣生活	B住生活	C	課題実践	合計																
			21.5	26	16	8	11	5	87.5																

3 家族・家庭、地域の生活を基盤として 豊かな生活を実現する例

この例は、第1学年の最初に「家族・家庭と地域」を学習することで、自分が家族の一員としての役割を果たすという小学校家庭科との関連を持たせ、家庭分野の学習が、家族・家庭生活の営みを基盤として豊かな生活を実現させることをとらえられるようにしている。第1学年の内容Aに続けて住生活の学習を配置し、家族の生活との関連を持たせる。生活の課題と実践は第2学年の最後に位置付け、家族、衣生活、環境を含めた総合的な実践とする。第3学年では、改めて内容Aに戻り、共生の視点から家族、幼児、地域（高齢者）など視野を広げて生活をより豊かにする工夫を考えていく。

第1学年	項目	A(1) ガイダンス/家族・家庭生活	B(6) 住居の機能と安全な住まい方 C(2) 消費者の権利と責任 [環境]				B(1) 食事の役割と中学生に必要な栄養の特徴	B(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事	B(3) 日常食の調理と食文化 [食品の選択と調理]															
	時数	2	8				4	7	12															
第2学年	項目	C(1) 金銭の管理と購入	C(2) 消費者の権利と責任	B(3) 日常食の調理と食文化 [地域の食文化] C(2) 消費者の権利と責任 [環境]				B(4) 衣服の選択と手入れ	B(5) 布を用いた製作 C(2) 消費者の権利と責任 [環境]	☆ A(4)、B(7)、C(3)														
	時数	6	4	6				8	7	4														
第3学年	項目	A(2) 幼児の生活と家族				A(3) 家族・家庭生活と地域	☆:生活の課題と実践																	
	時数	13.5				4																		
		配当時数	A	B食生活	B衣生活	B住生活	C	課題実践	合計															
			21.5	29	15	8	10	4	87.5															

4 身近な生活の自立として衣食住から始まり 課題と実践に総合的に取り組む例

この例は、身近な生活場面での自立を目指し、段階的に実践力を身につけ、より豊かな生活をつくる能力と態度を育てることをねらいとしている。第1学年では、衣生活から始め、住生活、消費生活についての内容を履修し、第2学年では消費者としての自覚を持ち、食生活について学習していく。第3学年では、家族から地域へと視野を広げ、よりよい生活を創造することを目指して、内容Aを履修する。選択必修である生活の課題と実践については、中間段階として第2学年の夏季休業中と、総合的な段階として第3学年の最後に位置付け、段階的に実践力を高める。

第1学年	項目	A(1) ガイダンス	B(4) 衣服の選択と手入れ C(2) 消費者の権利と責任 [環境]						B(5) 布を用いた製作						B(6) 住居の機能と安全な住まい方 C(2) 消費者の権利と責任 [環境]						C(1) 金銭の管理と購入			
	時数	2	9						9						9						6			
第2学年	項目	C(2) 消費者の権利と責任	A(1)(3) 家族・家庭生活と地域	☆ A(4)、C(3)	B(1) 食事の役割と中学生に必要な栄養の特徴	B(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事						B(3) 日常食の調理と食文化 C(2) 消費者の権利と責任 [環境]												
	時数	4	3	2	4	5						17												
第3学年	項目	A(2) 幼児の生活と家族				A(3) 地域 [高齢者]	☆ A(4)、B(7)、C(3)	☆:生活の課題と実践																
	時数	12.5				2	3																	
		配当時数	A	B食生活	B衣生活	B住生活	C	課題実践	合計															
			19.5	26	18	9	10	5	87.5															

5 食育の充実を通して自立から共生、 これからの生活へと視野を広げる例

この例は、食生活について第1学年から第3学年で段階的に履修し、自立から共生、これからの生活への展望へと視野を広げ、食育の充実に資するとともに、生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることをねらいとしている。第1学年から第2学年前半にかけては、生活の自立の視点で内容B、内容Cを履修させる。第2学年後半にかけては、共生へと視野を広げ、これからの生活への展望へと更に視野が広がるよう内容Aを中心に履修させる。第3学年では環境と食生活を関連させて扱い、選択必修である生活の課題と実践で環境に配慮し地域の食材を用いた和食の調理を設定し、3年間の食育を総括する。

第1学年	項目	A(1) ガイダンス	B(1) 食事の役割と中学生に必要な栄養の特徴	B(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事				B(3) 日常食の調理と地域の食文化 [食品の選択と調理、地域の食文化]						B(4) 衣服の選択と手入れ C(2) 消費者の権利と責任 [環境]						C(1) 金銭の管理と購入					
	時数	1	4	6				10						8						6					
第2学年	項目	B(6) 住居の機能と安全な住まい方 C(2) 消費者の権利と責任 [環境]				B(5) 布を用いた製作				A(1) 家族・家庭生活	A(2) 幼児の生活と家族				☆ A(4)、B(7)	A(2) 幼児の生活と家族	A(3) 家族・家庭と地域 [高齢者]								
	時数	7				8				3	6				2	5	4								
第3学年	項目	C(2) 消費者の権利と責任	B(3) 日常食の調理と食文化 [地域の食文化]				☆ B(7)、C(3)	B(3) 食文化 C(2) 環境	A、B、C 学習を終えて ☆:生活の課題と実践																
	時数	3	7				4	2	1.5																
		配当時数	A	B食生活	B衣生活	B住生活	C	課題実践	合計																
			20.5	29	16	7	9	6	87.5																

※紙面の都合上、高等学校の詳細は省略いたします。



小・中・高等学校の内容の系統性の明確化が一層目指されました。基本的にA、B、Cの3つで構成され、指導が系統的に行えるようになっています。

空間軸と時間軸の視点から、小・中・高等学校における学習対象の明確化が図られています。

小学校家庭科	中学校技術・家庭科 家庭分野	高等学校家庭基礎	高等学校家庭総合
<p>A 家族・家庭生活</p> <p>(1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長の自覚、家庭生活と家族の大切さ、家族との協力</p> <p>(2) 家庭生活と仕事 ア 家庭の仕事と生活時間 イ 家庭の仕事の計画と工夫</p> <p>(3) 家族や地域の人々との関わり ア 家族との触れ合いや団らん イ 地域の人々との関わり イ 家族や地域の人々との関わり方の工夫</p> <p>(4) 家族・家庭生活についての課題と実践 ア 日常生活についての課題と計画、実践、評価</p>	<p>A 家族・家庭生活</p> <p>(1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長と家庭生活との関わり、家族・家庭の基本的な機能、家族や地域の人々との協力・協働</p> <p>(2) 幼児の生活と家族 ア 幼児の発達と生活の特徴、家族の役割 イ 幼児の遊びの意義、幼児との関わり方 イ 幼児との関わり方の工夫</p> <p>(3) 家族・家庭や地域との関わり ア 家族の協力と家族関係 イ 家庭生活と地域との関わり、高齢者との関わり方 イ 家族関係をよりよくする方法及び地域の人々と協働する方法の工夫</p> <p>(4) 家族・家庭生活についての課題と実践 ア 家族、幼児の生活又は地域の生活についての課題と計画、実践、評価</p>	<p>A 人の一生と家族・家庭及び福祉</p> <p>(1) 生涯の生活設計 (2) 青年期の自立と家族・家庭 (3) 子供の生活と保育 (4) 高齢期の生活と福祉 (5) 共生社会と福祉</p> <p>これまで高等学校で履修していた「高齢者」に関する内容が中学校に新設されました。ただし、中学校では、いっしょに活動できる地域の高齢者が対象です。元気な高齢者でも加齢によって衰えが現れ、中学生とは異なるので、それを踏まえて地域で協働するために必要な介助について学びます。食事や着脱衣など、生活を支えるような介護については高等学校の学習です。</p>	<p>A 人の一生と家族・家庭及び福祉</p> <p>(1) 生涯の生活設計 (2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会 (3) 子供との関わりと保育・福祉 (4) 高齢者との関わりと福祉 (5) 共生社会と福祉</p>
<p>B 衣食住の生活</p> <p>(1) 食事の役割 ア 食事の役割と食事の大切さ、日常の食事の仕方 イ 楽しく食べるための食事の仕方の工夫</p> <p>(2) 調理の基礎 ア 材料の分量や手順、調理計画 イ 用具や食器の安全で衛生的な取扱い、加熱調理器具の安全な取扱い イ 材料に応じた洗いや、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付け イ 材料に適したゆで方、いため方 イ 伝統的な日常食の米飯及びみそ汁の調理の仕方 イ おいしく食べるための調理計画及び調理の工夫</p> <p>(3) 栄養を考えた食事 ア 体に必要な栄養素の種類と働き イ 食品の栄養的特徴と組合せ イ 献立を構成する要素、献立作成の方法 イ 1食分の献立の工夫</p> <p>(4) 衣服の着用と手入れ ア 衣服の主な動き、日常着の快適な着用 イ 日常着の手入れ、ボタン付け及び洗濯の仕方 イ 日常着の快適な着用や手入れの工夫</p> <p>(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ア 製作に必要な材料や手順、製作計画 イ 手縫いやミシン縫いによる縫い方、用具の安全な取扱い イ 生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画及び製作の工夫</p> <p>(6) 快適な住まい方 ア 住まいの主な動き、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方 イ 住まいの整理・整頓や清掃の仕方 イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方の工夫</p>	<p>B 衣食住の生活</p> <p>(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴 ア 食事が果たす役割 イ 中学生の栄養の特徴、健康に良い食習慣 イ 健康に良い食習慣の工夫</p> <p>(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事 ア 栄養素の種類と働き、食品の栄養的特質 イ 中学生の1日に必要な食品の種類と概量、献立作成の方法 イ 中学生の1日分の献立の工夫</p> <p>(3) 日常食の調理と地域の食文化 ア 用途に応じた食品の選択 イ 食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理 イ 材料に適した加熱調理の仕方、基礎的な日常食の調理 イ 地域の食文化、地域の食材を用いた和食の調理 イ 日常の1食分のための食品の選択と調理計画及び調理の工夫</p> <p>(4) 衣服の選択と手入れ ア 衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用や個性を生かす着用、衣服の選択 イ 衣服の計画的な活用、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ イ 日常着の選択や手入れの工夫</p> <p>(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ア 製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取扱い イ 生活を豊かにするための資源や環境に配慮した布を用いた物の製作計画及び製作の工夫</p> <p>(6) 住居の機能と安全な住まい方 ア 家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能 イ 家族の安全を考えた住空間の整え方 イ 家族の安全を考えた住空間の整え方の工夫</p> <p>(7) 衣食住の生活についての課題と実践 ア 食生活、衣生活、住生活についての課題と計画、実践、評価</p>	<p>B 衣食住の生活の自立と設計</p> <p>(1) 食生活と健康</p> <p>食生活においては、中学校で「蒸す」調理が追加されました。また、和食については、小学校では基本の「だしの取り方」、中学校ではだしの学習を応用・発展させた「だしと地域または季節の食材を用いた煮物または汁物」の調理ができるように求められています。</p> <p>(2) 衣生活と健康</p> <p>中学校では、小学校の学習を踏まえ、製作する物に適した材料や縫い方を理解できるようにします。また、衣服等の再利用の方法にも触れ、資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫できるようにします。</p> <p>(3) 住生活と住環境</p> <p>住生活では、これまで中学校で扱ってきた「音と生活との関わり」が小学校の内容となりました。カビ・ダニ等についても小学校の「通風・換気」や「清掃」と関連させて扱うことなどが考えられるとされています。中学校では「安全な住まい方」を重点的に扱います。</p>	<p>B 衣食住の生活の科学と文化</p> <p>(1) 食生活の科学と文化</p> <p>(2) 衣生活の科学と文化</p> <p>(3) 住生活の科学と文化</p>
<p>C 消費生活・環境</p> <p>(1) 物や金銭の使い方と買物 ア 買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の大切さ、計画的な使い方 イ 身近な物の選び方、買い方、情報の収集・整理 イ 身近な物の選び方、買い方の工夫</p> <p>(2) 環境に配慮した生活 ア 身近な環境との関わり、物の使い方 イ 環境に配慮した物の使い方の工夫</p>	<p>C 消費生活・環境</p> <p>(1) 金銭の管理と購入 ア 購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理 イ 売買契約の仕組み、消費者被害、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理</p> <p>(2) 消費者の権利と責任 ア 消費者の基本的な権利と責任、消費生活が環境や社会に及ぼす影響 イ 自立した消費者としての消費行動の工夫</p> <p>(3) 消費生活・環境についての課題と実践 ア 環境に配慮した消費生活についての課題と計画、実践、評価</p>	<p>C 持続可能な消費生活・環境</p> <p>(1) 生活における経済の計画 (2) 消費行動と意思決定 (3) 持続可能なライフスタイルと環境</p> <p>「金銭の管理」に関する内容が小・中・高等学校の全てに入り、系統化が図られました。また、中学校では、「(3)消費生活・環境についての課題と実践」が新設されました。A(4)、B(7)、C(3)は関連させて扱うことが求められています。高等学校では、成年年齢の引き下げにより、2020年度入学生から消費生活に関わる内容を1、2年次に履習することになりました。</p>	<p>C 持続可能な消費生活・環境</p> <p>(1) 生活における経済の計画 (2) 消費行動と意思決定 (3) 持続可能なライフスタイルと環境</p>
		<p>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p>	

新設 上の校種から移動

※ A(4)、B(7)、C(3)は選択項目 3学年間で1以上を選択

※ A(1)は学習の導入として扱い、またAからCまでの内容と関連付けるとともにまとめとしても扱う。